2024年11月30日（土）12月1日（日）
第６回飛騨高山学会

旧遠山家のVR体験教材の効果と今後の展開

-奥飛騨エリアの地域文化に触れる導入教材の開発段階からの一考察-

同朋大学　社会福祉学部
准教授　牛田　篤

１．はじめに　１．１

1.1　本研究の着想

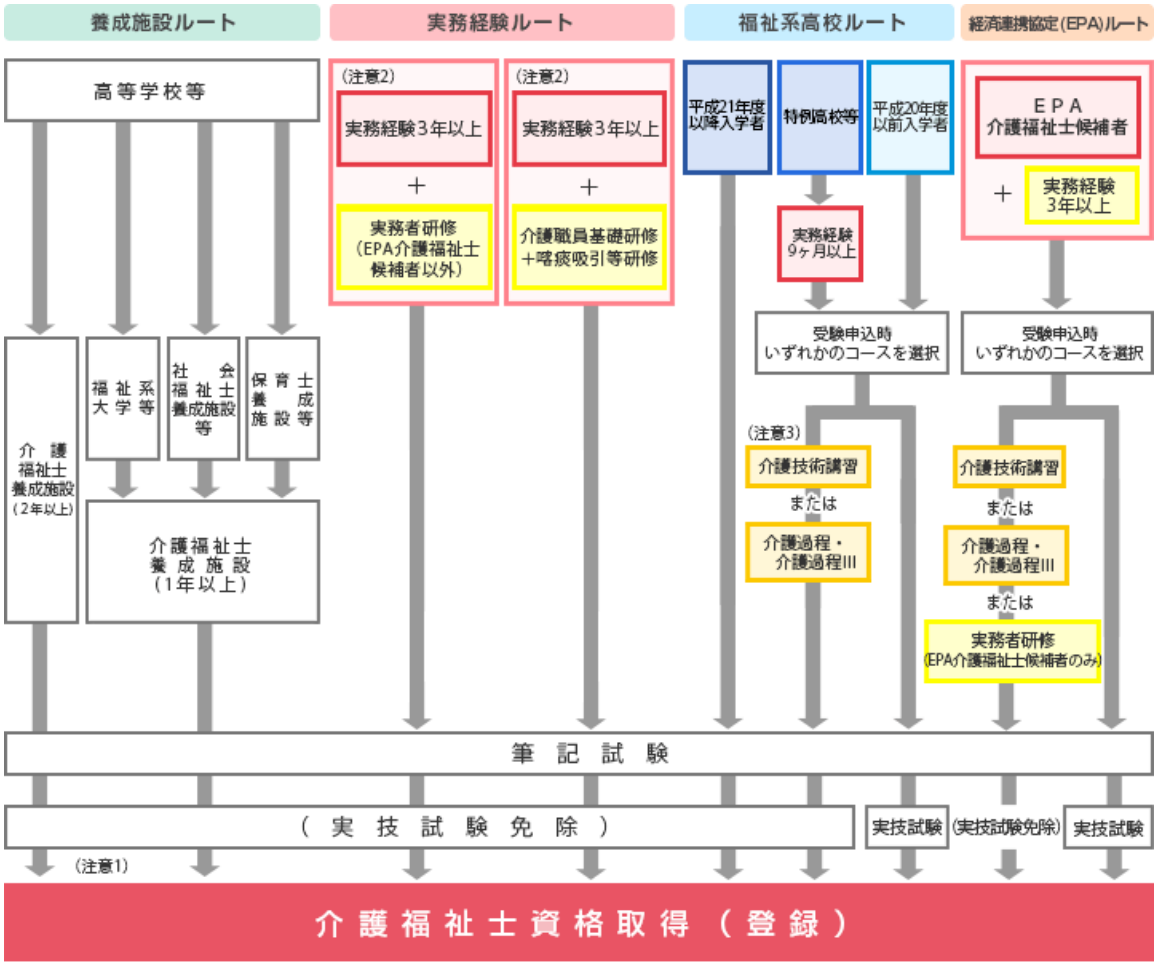
白川郷の合掌造り（旧遠山家）のVR映像に関する着想

高齢者福祉，介護概論，または介護福祉士養成では，子どもから高齢者，障がいや認知症の有無に関係なく，地域共生社会の実現に関する教育が必要である。

前述について，合掌造り，結のこころは，学生たちに地域の生活文化を学ぶ機会となる。

岐阜県白川村，白川郷の生活は，昔から個々の家の助け合いと協力によって営まれてきた。

介護福祉士、４つの取得ルート



出典　介護福祉士国家試験]受験資格：福祉系大学等：公益財団法人 社会福祉振興・試験センター
http://www.sssc.or.jp/kaigo/shikaku/route.html　閲覧　2022年2月22日

介護福祉士国家試験　受験資格　（資格取得ルート図）

介護職、介護福祉職のイメージを持つために　介護職diaryの紹介

介護職diary
https://www.youtube.com/watch?v=xJm6yh2EhnA

愛知県・介護の魅力発信チャンネル

介護の魅力を発信するサイト
閲覧　２０２４年１１月７日QRコード作成

介護福祉士は、国家資格であり、上記の仕事のように高齢者福祉分野で活躍する専門資格。障がい分野でも活躍する介護福祉士も複数いる。

出典 白川村公式ホームページ
平瀬温泉エリア
大白川の湯 平瀬温泉郷

○白川村の旧遠山家の場所

白川村は、1995年、富山県の五箇山と共に白川郷・五箇山の合掌造り集落として、ユネスコの世界遺産（文化遺産）に登録されている。

本研究の調査は、○エリアとする。

１．はじめに　１.２

1.2　白川郷の合掌造りから地域共生を学ぶ

冬は雪に閉ざされ，各集落が孤立を余儀なくされる厳しい自然条件に置かれた。だからこそ，年間を通した様々な暮らしの場面で共同や互助が必要とされ，白川村ならではの相互扶助の関係が築かれてきた。

そして，白川郷の合掌造りの家では，20年～30年に一度，屋根を葺き替えている。村人同士の助け合いを「結（ゆい）」と呼んでいる。葺き替え作業は，「結」で行っている。

結のこころは，現在でも，白川村の中では，「結」のこころを守り継ぎながら生活している。また旧遠山家では，大家族制の特徴と歴史を学ぶことができる。前述を地域に出かける前に学習し，体験する機会としてVR映像を開発することにした。

旧遠山家　２階展示エリア　合掌造りの構造

１．はじめに　１.３

1.3　白川村の人口・高齢者の状況（65歳以上の割合）

白川村の高齢化率：白川村役場のデータから，2023年10月1日現在，高齢化率は33.67%と報告されている。

人口を男女別に見ると男性733名，女性758名，

合計1,491名である。

※抄録作成時の記載内容

〇2024年10月1日時点

男性 731名，女性 751名，合計 1,482名

世帯数 604世帯

高齢化率 33.67%

出典：白川村公式ホームページ　閲覧11月13日

https://www.vill.shirakawa.lg.jp/2406.htm

１．はじめに　１.４

1.4　介護福祉士養成施設

介護福祉士養成施設の現状と教育：介護福祉士養成施設では，2023年の養成施設数は296校，留学生内数が1,802人である（出身国数は25か国，入学者に占める留学生割合は29.1%）。

多様な学生が介護福祉士取得を目指し，2019年度から段階的に，求められる介護福祉士像10項目＋高い倫理の保持を示した教育の見直しが開始している。

介護福祉士養成では，地域に焦点を当て，地域共生社会，各地域の生活文化を理解し，その地域での生活支援者となる能力を学ぶことが重要である。

２．目的

本研究は，白川村における旧遠山家のVR体験教材の効果と今後の展開について報告する。

さらに，今後の展開として，自然環境豊かな地域での生活に目を向けるため，奥飛騨エリアでの地域文化に触れる機会を持つ導入として，VR体験教材の試行に着手し，その開発段階における一考察を報告する。

VR体験教材　旧遠山家の外観

３．方法

3.1　対象：学生3名

3.2　調査期間：2024年8月1日～2024年10月1日

3.3　調査内容：本調査の手順は、以下の通りである。

①対象者は，白川村における旧遠山家のVR体験教材の説明を行う。

②実際にVR体験を5分～7分程度体験する。

③対象者に対して、体験後にインタビュー調査を行う。
④それらの調査結果について考察する。

分析方法：本調査で得た内容を質的に分析する。

3.4 調査手順

本調査を進める際、はじめに白川村役場の村民課、白川村社会福祉協議会、高齢者福祉施設 瀬音さくら山荘に対して、研究の目的及び調査内容を説明する。

先行研究として着手している「白川郷における地域共生社会の実現に向けた他職種連携教育プログラムの開発」にて、学内倫理審査の承認を得ているため、同様のプロセスにて倫理的配慮に遵守し、可能な範囲での協力を調整した。

研究倫理

3.5　倫理的配慮

本研究は対象者に事前説明を行い，同意を得て実施する。対象者及び関係者に不利益がないように実施し，体調に応じて途中で中止することも可能である。対象者は特定されない。

学内倫理審査：承認番号2023-01-02

４．結果　４．１

本調査から，白川村における旧遠山家のVR体験教材について，好意的な回答を得た。

その際，旧遠山家のVR体験は，学生から関心を持つ機会となった。

「実際に行ってみたい」

「香りも気になるので、現地に行きたい」

「面白かった」

「勉強になりました」

「VRだと360度見ながら体験できてよかったです」「奥ゆきがあり、動画や静止画よりも関心を持ちやすい」といった回答を得た。

４．結果　４.２

今後の展開として，奥飛騨エリアでの地域文化に触れる機会を持つ導入教材として，VR体験の試行に着手していることを伝えた質問の回答

「遠方の場合，事前学習としてVR体験できるとよいと思います」

「香りも気になるので，現地に行ってみたい」

「VRで事前に楽しそうな体験ができると，予定が合えば，現地に行って見学や体験したい」

「山間部の高齢者福祉を考えに行ってみたい」

「VR体験で様々な場所を経験できると，より実際に行って学ぶことができると思う」

「関心を持ちやすい」「静止画や動画より，VR体験が楽しみです」といった回答を得た。

４．結果　４.３

一方，装着時間や実施方法に関する課題との回答を得えた。

〇装着時間

「5分程度がよい」

「10分だと気分が悪くなる人もいると思う」

〇実施環境について

「ミラーリングした方がよいと思う」

「ミラーリングがあるVR体験だと，参加者がお互いに関心ある箇所に気づき合うことができる」

「座って体験した方がよい」といった物品等の必要な点について回答を得た。

ミラーリングを活用したVR体験の説明

気づきを発表した後、VR体験教材のまとめを行う様子

VR体験教材の装着の様子

５．考察

本結果から，今後の展開では，VR体験の進め方，VR体験教材の工夫を検討する必要がある。

VR体験は，地域の文化，季節と生活に関する事前学習として有用といえよう。

VR体験教材を活用する際は，共に学び合い，関心を持つ機会とし，さらに実際に現地で学びを深めることが重要であると考える。

本研究から、VR体験教材の取り組みは、360度で周囲を確認しながら没入感があるからこそ、２Dの映像教材より現役学生が関心を持つ機会に繋がることが示唆された。

また、奥飛騨エリアには、アクセス上の課題はあるが、その魅力を事前学習できると、「行ってみたい」「体験したい」状況が示唆された。

VR体験教材の奥飛騨エリア候補　夏

VR体験教材の奥飛騨エリア候補　冬

参考文献

１．「令和5年度版高齢社会白書」（全体版）（PDF版）内閣府

https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2023/zenbun/05pdf_index.html　(2023.10.20)

２．「第2次白川村地域福祉計画」岐阜県白川村

https://www.vill.shirakawa.lg.jp/secure/1131/fukushikeikaku2.pdf (2023.10.20)

ご清聴ありがとうございました。

なごや・なかむら
同朋大学

KUREYON_HF2023